

# 2023年度 関東学生水球リーグ戦水球【戦評】

会場：日本体育大学

【2023/6/25】

## この試合のプレー集計

### 1部3決

中央大学 16

2	—	3
3	—	3
3	—	3
3	—	2
5	PSO	4

15 筑波大学

審判：

森林 和三  
深谷 周平

	31	SH数	34	
中央大学	8	速攻数	16	筑波大学
	11	ST・SB	13	
	9	SH・P誘発アシスト	10	
	39%	GK阻止率	45%	
	6	EX反則数	10	

ST・SB：ボール奪取・SH阻止

### 【試合の流れ】

久々に上位進出を果たした中央大学と準決勝では専修大に惜敗した筑波大学との3位決定戦。1次リーグ戦では筑波大学11-8中央大学であったが、最終ピリオドで筑波大が突き放した形で、両チームの力は拮抗している状況。

#### 1P

スタートから筑波大得意のカウンター攻撃。③和田、⑦嶋本、⑩中島が中央大のパスやシュートを安定感あるGK①木ノ下を軸に防いで連続得点。試合は筑波大ペースで展開した。中央大はなかなか決定機を作れず、シュートも遠目で動きのないものばかり、そのままピリオドが筑波大ペースで終わるかと思えた残り1分30秒を切ったとき、筑波大⑤竹内がシュートミス。そこを中央大⑩藤林がシューターの前に入って退水を誘発。そのチャンスを⑩竹村が決めて1点を返すと、完全に息を吹き返した。ピリオド終了間近に、中央大⑩竹村のボール奪取から右展開攻撃。右サイドの角度のない位置から⑥針谷が決めて、中央大2-3筑波大で第1ピリオド終了。この先、接戦が予想される展開となった。

#### 2P

センターボールは中央大が奪うが、中央大は相変わらず筑波大DFを突破できない状況が続いた。中央大のシュートを筑波大GK①木ノ下が防ぎ、④山田、⑤竹内がトップ位置からタイミングよく連続得点で点差を広げた。対する中央大は、ここでも⑤竹内の退水シュートを⑦笠間が防ぎ、そこで逆に退水を誘発して④吉村が決めて点差を詰めた。さらに筑波大のシュートミスに乗じて⑩藤林が退水を誘発して③谷が決めて再び1点差に戻した。その後、再開プレーで双方が点を取り合い、筑波大が退水を奪ってシュートするもこれも外してしまい、逆に⑥針谷が退水を誘発して中央大ベンチがタイムアウトで勝負に出た。しかし、この勝負も不成功に終わり、中央大5-6筑波大という1点差で前半を折り返した。

#### 3P

中央大の攻撃でスタートした第3ピリオド、筑波大のオフense反則から中央大が一気呵成の攻撃に。⑩藤林がセンターで会心のシュート決めてこの試合はじめて同点に追いついた。しかし、筑波大も中央大の退水シュートミスからのカウンター攻撃で③和田が、さらに中央大パスミスを受けて⑤竹内が続き、中央大③谷のやや強引なシュートを筑波大GK①木ノ下が防いでからの泳ぎで中央大を上回り、カウンター攻撃を得意とする③和田がペナルティを誘発して⑥佐野が決めて3連続得点で、3点差を広げた。この時点でペースは筑波大に。この流れを再び中央大に戻したのは右サイドを突破した⑥針谷の得点。その直後、筑波大センター⑨織島が退水を誘発したものの⑩中島がシュートを外してしまい、逆に中央大に今度は左サイドを突破されて、中央大⑩竹村が決めて中央大8-9筑波大と一気に点差を詰めて第3ピリオド終了。この最後の2得点が試合の行方を大きく左右することになった。

#### 4P

ピリオド序盤は一進一退の攻防が続いたが、筑波大のオフense反則からチャンスを得た中央大がセンター位置から⑩藤林が決めて、再び同点に追いついた。その後、双方が必死の攻防を繰り返して、筑波大が得意の速攻で、中央大も攻撃時の仕掛けでペナルティを誘発して双方が点を取り合う展開で残り1分。ここで、筑波大が中央大のパスをインターセプトして右サイドを泳いだ③和田が決めて1点をリード。ここで勝負ありかと思えたが、最後の中央大攻撃でセンター位置から⑩藤林が決めて同点でタイムアップ。筑波大側としてはこの最後のプレーは余裕をもって対応できたはずだが、粘る中央大に押し切られた形となった(中央大11-11筑波大)。

#### PSO

ここで中央大がGKをチェンジ。GK⑬西森への変更を決断した。この策が大当たり。落ち着いたプレーで3本ブレイクして中央大が競り勝った。

勝った中央大が1991(平成3)年以来の32年ぶりの3位に躍進したリーグ戦となった。